

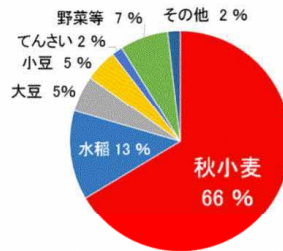
# 北石狩型輪作体系の新たな展開！

～当別町～

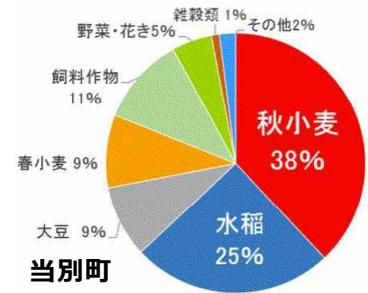
## 1 課題設定の背景

- (1) 小麦が過作傾向で、連作障害が多く発生していた。
- (2) 土壌の物理性や化学性の不良により、生産性に差が生じていた。
- (3) 重点地区には、2戸で後継者が就農しており、所得向上に向けての提案も必要であった。

湯田里地区 8戸対象



湯田里地区



当別町

## 2 活動の内容

到達目標を地域農業粗生産額アップとし、小麦過作解消、輪作の適正化、化学性・物理性改善による生産性向上を目的とした活動を展開した。

### 『到達目標 地域農業粗生産額アップ』

#### 推進事項

北石狩型輪作体系の実施～定着

生産基盤再構築による既存作物の安定生産

#### 輪作作物の導入・拡大

秋まき小麦以外の振興作物の導入と作付面積の拡大を図る（てんさい、豆類、野菜等）

#### pH矯正の実施

転作ほ場平均 pH5.5以上に矯正  
**新たな排水改善技術導入**  
 補助暗きよの施工戸数増加

## 3 活動の成果

- (1) 北石狩型輪作体系の実施～定着  
ア 産地交付金の見直し

輪作、振興作物に手厚く



産地交付金見直し会議

表1 産地交付金の改定内容(H29～)

項目	内容
「担い手加算」の大幅改定	減額
「輪作加算」の設定	新設
「輪作加算ルール」の設定	連作の定義設定、 輪作加算額の新設
「輪作体系推進加算」の設定	新設
「重点輪作作物導入加算」の設定	新設

#### イ 緑肥の導入増加



緑肥  
大麦「てまいらず」の実証

展示ほを設置し定点調査の結果を情報提供することで、農業者の地力対策の重要性の認識が高まり、緑肥導入農家は増加した。

最終年は  
ひまわり緑肥が  
増えました

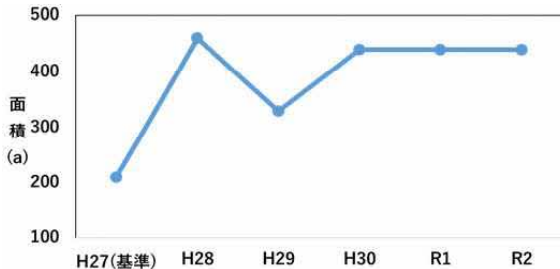


### ウ てんさい作付け面積の増加

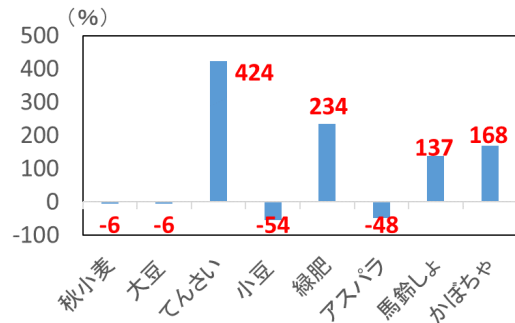
直播てんさいの栽培実証や補助事業によりビートハーベスタを導入し、作付けが拡大。

### エ 輪作作物の地域への定着波及

施肥・防除・栽植密度・マルチ幅などの提案が実践され、収量や作付の向上・安定に繋がった。



かぼちゃ作付面積推移



### オ 輪作の推進

輪作導入の意識が高まり、最終年の作物構成比は、秋まき小麦が減少し、てんさい、かぼちゃ、ばれいしょ及び緑肥が増加した。

### (2) 生産基盤再構築による既存作物の安定生産

#### ア 直播てんさい収量の向上

土壌 pH 矯正等の基本技術・戸別カルテを活用した技術支援により直播てんさいの収量は目標を大きく上回った。  
(目標比130%)

#### イ 土壌の物理性・化学性改善

緑肥作付やカットドレーンの施工等を提案し、土壌の物理性改善が図られた。



カットドレーン施工

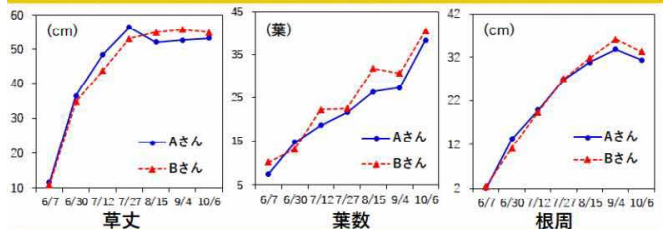
秋まき小麦、大豆、てんさい、かぼちゃ収穫後の戸別平均 pH は基準値以上となった。

直播てんさい戸別カルテ

戸別カルテで相談

#### H29 てんさい栽培の通信簿 ~湯田里ファーム~

★てんさいの生育特性と管理ポイント★  
・収穫時の根重と糖量は、初期生育量(草丈、葉数)と、非常に密接な関係がある。  
高収量・高糖度を目指すには、7月中旬までに初期生育を確保することが重要となる  
(特に直播栽培では勝負を左右する極めて重要な管理ポイントとなる)。



Aさん  
・7月下旬までに初期生育を十分確保され、生育は最大となった(直播てんさいの典型的な生育反応)  
Bさん  
・生育量を確保したが、やや後優的な生育といえる(移植栽培の典型的な生育反応)。



土壌の物理性・化学性改善により、各作物とも地区平均以上の収量を確保している。

### 4 今後の対応

石狩型輪作体系がほぼ図られたことから、今年度で湯田里地区の活動は終了し、要請活動とする。

基準年を100とした重点地区生産額(5年平均118%)

